

## 各市町村等の移住・定住サイト

### 豊橋市

政策企画課

☎ 0532-51-3151

「ええじゃないか豊橋」 「穂っとネット東三河・豊橋」



### 豊川市

企画政策課

☎ 0533-89-2126

「CITY AND PEOPLE  
～ひとのわ、とよかわ。～」

「穂っとネット東三河・豊川」



### 蒲郡市

企画政策課

☎ 0533-66-1162

「いいじゃん蒲郡」 「穂っとネット東三河・蒲郡」



### 田原市

企画課 地域戦略係

☎ 0531-27-7978

「たはらに暮らす」

「穂っとネット東三河・田原」



### 新城市

企画政策課

☎ 0536-23-7620

「新城市への移住情報」 「穂っとネット東三河・新城」



### 設楽町

企画ダム対策課移住定住推進室

☎ 0120-060-514

「設けて楽しむ、したら町」 「穂っとネット東三河・設楽」



### 東栄町

総務課企画係

☎ 0536-76-0502

「移住定住  
促進情報サイト居職住」 「穂っとネット東三河・東栄」



### 豊根村

地域振興課

☎ 0536-85-1312

「村への定住移住について」 「穂っとネット東三河・豊根」



### 東三河県庁

「穂っとネット東三河 東三河で暮らすということ」



発行 東三河県庁

愛知県東三河総局企画調整部企画調整課

〒440-8515 愛知県豊橋市八町通5丁目4

☎ 0532-35-6100

東三河地域は、愛知県東部に位置し、山と海に囲まれる、豊かな自然と都市が融合した地域です。

## 自転車 豊橋市



### あなたらしい豊かな暮らし方ができるまち

表浜海岸や汐川干潟、葦毛湿原など豊かな自然環境や手筒花火を始め伝統文化に恵まれたまちです。また、新幹線や路面電車を含む3社6路線の鉄道が乗り入れる豊橋駅や幹線道路など交通アクセスに優れています。市内には3つの大学があり、文化・教育環境も充実しています。未来を担う人を育むまちとして、子育や教育にも力を入れています。

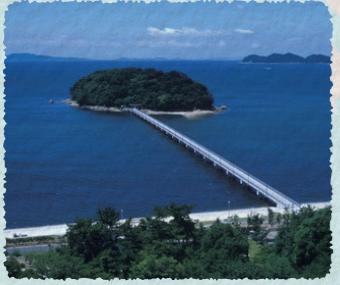
## 自転車 豊川市



### 長い歴史と豊かな自然に恵まれたまち

一級河川の豊川、北部に連なる本宮山麓、南部に広がる三河湾など、豊かな自然環境に恵まれたまちです。商売繁盛のご利益があるといわれており、全国に名を馳せる豊川稻荷が知られています。風情漂う参道を中心としたご当地グルメも有名で、豊川いなり寿司やおきつねバーガーなど、まちおこしも活発に行われています。

## 波 蒲郡市



### 海、山、川が身近にある自然豊かなまち

海辺の観光地で、三河湾国定公園に指定されています。約47kmの海岸線沿いに4つの温泉地を持ち、神社や仏閣の多い、美しい土地です。鉄道唱歌に歌われるほど海の眺めは美しく、海から山にかけ変化に富んだ景勝は、数多くの文人に愛されておりました。穏やかな気候を活かしたフルーツ栽培や、織維関連産業が盛んでいます。

## 波 田原市



### 美しい自然環境に恵まれたガーデンシティ

愛知県の最南端、渥美半島に位置し、三河湾と太平洋に囲まれた田原市は、美しい自然に恵まれたガーデンシティです。全国有数のサーフスポットや、蔵王山など海と山に囲まれた風光明媚な観光地です。温暖な気候や、長い日照時間から全国屈指の農業産出額を誇っており、バラエティ豊かで、収益性の高い農業が営まれています。

## 愛知県



東三河

### 高速バス

東京や大阪へ直通で行ける!!



豊根村

新城市



### ロマンあふれる自然と歴史の里

新城市は、市域の内約84%は三河山間部を形成する緑豊かな地です。国の名勝に指定されている鳳来寺山をはじめ、国定公園や県立公園の指定区域には、希少な動植物が息づく生態系や景勝地が守られています。他にも1300年の歴史を持つ湯谷温泉や、長篠城址や設楽原決戦場など、歴史の舞台になった名所が点在しています。



田原市

太平洋

豊橋駅から  
東京駅まで 約80分  
新大阪駅まで 約90分  
名古屋まで 約20分

設楽町



### 子どもに優しいまち

出生数が10名なのに新しい保育園ができる。18歳まで医療負担ゼロ。4400名の町に、保育園4園、小学校5校、中学校2校、高校1校。設楽町は、子どもに優しい町です。



東栄町



### 雄大な自然と脈々と文化が受け継がれたまち

木曽山系の南端に位置し、700mから1000m級の山々が連なり、町の中央部を大千瀬川の清流が流れ、天竜川に注いでいます。総面積の約9割が山林と原野で形成されており、振草渓谷県立自然公園や天竜奥三河国定公園など、山岳渓流美を心ゆくまで体感できます。町の伝統芸能である「花祭」は国の重要無形民俗文化財です。

豊根村



### 愛知のてっぺん豊根村

長野県、静岡県に隣接する豊根村。総面積の約93%を山林が占めており、年間平均気温約13℃、年間降水量約2400mmの冷涼多雨な気候です。愛知県最高峰の茶臼山をはじめ、1000m級の名峰が連なる峡谷型の地形。佐久間、新豊根という二つの大きなダムに、天竜川など大小河川が流れ込み、渓谷美を演出しています。

## 交通の拠点



## 自邸 豊橋市

東京都 ▶ 豊橋市

東京都出身。大学卒業後広告代理店で7年間勤務。2021年3月に家族4人で豊橋市に移住し、株式会社タスキへ転職。



種田 繁人さん

## 移住のきっかけは何ですか？

移住する前は東京でベビーシッター等を駆使しながら仕事と子育てをしていたのですが、やっぱり子どもとの時間が満足に取れなかった事がきっかけです。また、もう少し自然の豊かな場所で子育てをしたいという気持ちもありました。

## 豊橋に移り住んでみて

東京にいる時よりもいい意味で忙しくしています。ずっと憧れていた「庭付き古民家」と「大型犬」を一緒に手に入れ、家の中を整えたり世話をしているだけでも楽しいです。

仕事の面でも、キャリアを活かしつつ新たな挑戦もできているので、自身のスキルアップにも繋がっていると感じています。

## 東三河全体として

私は家族と一緒に自然の中で遊ぶことが好きですが、以前は遊ぶフィールドに行くのに片道何時間もかけるような状態でした。東三河は街が山と海に囲まれているので、自然で遊ぶことのハードルがグッと下がり、贅沢な時間の過ごし方ができています。また、地域資源を活用した様々なアクティビティがあることも魅力だと感じています。街で仕事をしつつ、自然で遊びやすい環境。まさに自分が求めていた理想に近い生活を送ることができていると感じています。

# 移住者インタビュー

実際に東三河へ移住された方に、お話を伺いました。

## 海の見える暮らし



## 自邸 豊川市

兵庫県 ▶ 豊川市

兵庫県出身。外語大学を卒業後、日本トレクス株式会社に1ターン就職。入社以来、人事の仕事に従事。学生時代に留学経験があり、海外旅行も趣味。目標は50カ国とのこと。



茶野 由衣さん

## 豊川市に1ターン就職した経緯は？

就職活動では、「興味のある業界」「仕事内容」「会社の雰囲気」の3点を重視し、「働く場所」にはこだわっていました。なので、経緯としては、働きたい会社が豊川市にあったからです。とはいえ、会社見学の際に交流した先輩社員がとても素敵で、こういう人がいる会社なら地元を離れても大丈夫だと思ったことも大きな理由の一つです。

## 豊川で生活してみて感じることは？

最初に感じた印象は、「田舎といわれる割には自然が少ないところ」。というのも、子どものころは山に囲まれた地域に住んでいたので、田舎イコールあふれる自然というイメージでした。しかし

ここは、自然も街も適度にある田舎。スポーツやレジャーを気軽に楽しむこともできれば、買い物や外食にも困ることはありません。自分のペースで仕事や生活ができる「ちょうど良さ」は大きな魅力だと思いますし、東三河の人の、方言がかわいくて、人懐っこいところも大好きです。

東三河には、知名度は低いけれど、優良企業と呼べる会社がたくさんあって活気に満ちています。そんな豊川市への1ターン就職は、私にとって大正解でした。

## 蒲郡市

横浜市 ▶ 蒲郡市

晃爾さんは、横浜市から、妻の光世さんは、岐阜市からご結婚を機にそれぞれ移住。



崎田 晃爾さん  
光世さん

## 横浜と岐阜の二人がなぜ蒲郡へ？

私は(晃爾さん)が仕事で一宮に赴任していたときに妻(光世さん)と岐阜で出会いました。その後、勤務地が刈谷になったことで新居の計画を立てはじめました。通勤可能な場所が必要最低条件のなかで名古屋のような大都市ではなく、もっと自然に恵まれた所に住みたいと考え、やがて海のあるまち蒲郡に興味が湧いたことがきっかけです。



## 海の見える物件探し

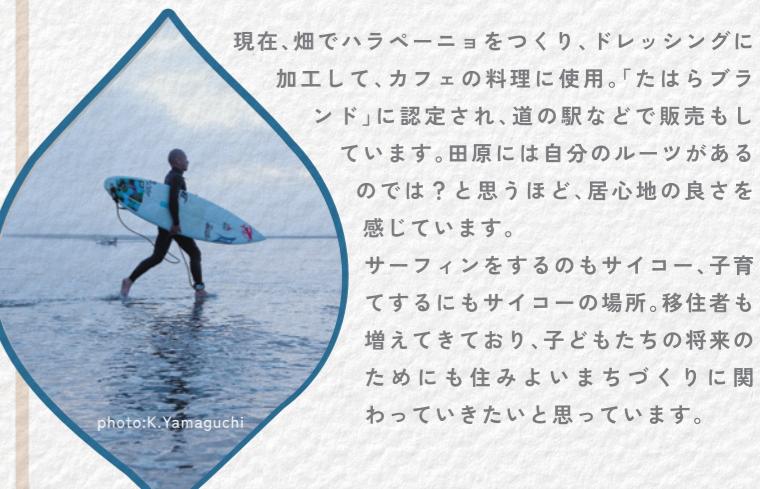
海のない岐阜出身の妻にとって海は憧れ。また学生時代にヨット部だった私には、葉山や逗子の風景が蒲郡に似ている気がしました。海の見える物件を探し、何度も車で訪ね、ついに理想的な場所を発見！それがまさしく、現在の家が建っている場所です。海辺に住むにあたり、地震を気にしていましたが、この辺りは地盤が堅く、しかも高台なので津波の心配もありません。私たちにとってまさに理想的な場所でした。

## 田原市に移住したきっかけは？

大阪で生まれ育ち、30歳の時に忙しさで体を壊したのをきっかけに仕事を退職。やりたいことをしようと、サーフィンをしながら5年ほど海外を旅していました。自然や人とのつながりに人生観が一変し、お金にはかえられない幸福感を味わうことができました。その頃知り合ったサーフィン仲間が田原の出身ということで、度々訪れるようになり、そのまま居ついています。

## 田原市での生活について

イタリアで飲んだおいしいエスプレッソが忘れられず、2012年に『DIEZ café』をオープン。田原で家族ができ、コミュニティづくりも考えていたので、その拠点にしたいという思いもありました。



現在、畑でハラペニョをつくり、ドレッシングに加工して、カフェの料理に使用。「たはらブランド」に認定され、道の駅などで販売しています。田原には自分のルーツがあるので?と思うほど、居心地の良さを感じています。サーフィンをするのもサイコー、子育てするにもサイコーの場所。移住者も増えてきており、子どもたちの将来のためにも住みよいまちづくりに関わっていきたいと思っています。

# 山のある暮らし



名古屋市 ▶ 新城市

林業に関心を持ち、  
新城市へリターン移住。  
自らの会社を立ち上げ  
事業を行う。



田實 健一さん

## 新城市で暮らすようになったきっかけは？

私はバイクが好きなのですが、ツーリング中に新潟県で、中越地震に遭遇しました。その際に地震で山林が崩壊している様を目撃したりにして、林業というものに関心を持つようになりました。その後、現場で一から林業を学び、現在は自らの会社「合同会社新城キッコリーズ」を立ち上げ事業を行っています。



## 林業の魅力について

今はまだ丸太が高く売れる時代ではないので、お金儲けのために林業に従事したわけでは無いです。森林を守ることは川を守るということ。それは下流域のまちや人を守ることなんですね。

自らの手で自然環境や人々の暮らしを守っている自負。  
それが林業を営む理由です。

現在は自らの会社の立ち上げを行っていますが、リターンで林業の会社を起業した人はいません。そういうチャレンジができること自体が面白いですよね。スギ、ヒノキを植え、伐採するだけの林業から、自然環境を守り、森の恵みや価値を再認識する「森林業」を目指す新たなチャレンジが始まっています。

千葉県 ▶ 設楽町

大学時代にオリエンテーリングというアウトドアスポーツに出会ったお二人。地域おこし協力隊の制度を活用して設楽町に移住。



戸上直哉さん  
麻美さん

## 設楽町に移住したきっかけは？

きっかけは、オリエンテーリングのイベント運営に挑戦したかったからです。地域おこし協力隊の制度を活用し、そういった活動ができる場所を探していました。そこでたまたま設楽町を見つけました。この町は傾斜が緩やかな里山に恵まれている、オリエンテーリングにぴったりな場所なんですよ。

## 古民家宿＆バル てらわき

2022年の6月に「古民家宿＆バル てらわき」をオープンしました。ある日、大きな空き家を見つめ、ロケーションも良い古民家だったので、町内外の人々が集まる、バーと宿を兼ねた場所を作ろうということになりました。まず、バーと宿のデザインを公募するところからスタートし、全国からボランティアを募り、設楽町の大工さん、工務店さんに協力・アドバイスをいただきながら、みんなで作り上げました。



## これからの挑戦

モンテッソーリという教育理念に基づいた幼児教具を奥三河の木材を活用しながら作りたいと考えています。そして、古民家宿＆バルも木材活用も、いずれは地域の雇用創出に繋げたいと考えています。

設楽町に移住してから様々な繋がりができました。活動に興味を持ってくださる方のサポートのおかげで私たちの活動が実現できています本当にありがとうございます。



和歌山県 ▶ 東栄町

和歌山県出身。大学卒業後の2013年4月、「地域おこし協力隊」に参加するため東栄に移住。手作りコスメ体験「naori」の企画、開発に携わる一方で、東栄町観光まちづくり協会の立ち上げに関わる。

大岡 千絵さん

## 東栄町への移住のきっかけは？

大学生の時、授業の一貫として地域おこしのプロジェクトに参加し、地域おこしと祭りに興味を持ちました。その後、全国60カ所の祭りを見て回り、出会ったのが東栄の「花祭」でした。どこよりも印象に残った祭りでした。卒業後に協力隊で活動しようとした時、偶然にも東栄の人からお説明いただいたことで移住を決心しました。



## 地域おこし協力隊での活動

私はここでしかできない体験を通じて、この町を好きになってもらいたいと思い、日本でも東栄のみ採れる鉱物・セリサイトを使ったファンデーション作り体験をメインとした「手作りコスメ体験naori」を、地元の企業とともに立ち上げました。

## 東栄町の魅力

自然の中で暮らしたい、子育てしたい。でも、不便な生活はちょっと... そう思っている方には最適な場所です。浜松や豊橋まで1時間ですし、そこから新幹線にも乗れます。東栄にJRの駅もあるので、不便を感じることはありません。同世代の方は、浜松や新城で働いている人もいますし、人手が足りない企業もあり、働く場所もあります。若い人の移住が増えていくのも納得です。ほどよい田舎って魅力ですよ。



東京都 ▶ 豊根村

名古屋で生まれ、東京の大学に進学。もうすぐ大学4年生という2019年の2月、チョウザメ養殖の世界に飛び込むよう地域おこし協力隊の応募を決意し、生まれて初めて豊根村に訪れた。



小早川 武史さん

## 移住のきっかけは何ですか？

大学生時代、就職活動に勤しむ中で、「地域おこし協力隊」という文字が目に留まった。イベントに参加したところ地元愛知県のブースもあり、豊根村がチョウザメ養殖に携わる隊員を募集していました。どうせ田舎に行くなら一番の田舎が良いと思ったことと、小さい頃から釣りや魚が好きだったので、企業の最終面接を断って豊根村に訪れた事がきっかけです。

## 現在の活動

チョウザメの養殖をしていますが、キャビアが採れるようになるまでには10年はかかるため、農業と中学生を対象とした学習塾も行っています。農業では、タマネギやサトイモ、枝豆、大豆、大根、ニンニクなどを栽培し、道の駅で直販したり、ネット販売にもチャレンジしています。



学習塾は教育委員長からの誘いがきっかけで、地域活性化で一番大事なのは将来を担う子どもとを考えていたので、二つ返事で引き受けたことにしました。

## 豊根村の魅力

ここ豊根村では、アイデアを出せば、どんどん新しいことに取り組むことができます。自分で考え、工夫して、やり遂げる。決して楽ではないが、仕事のおもしろさとやりがいを日々体感しています。